

環境活動レポート

2010年4月28日

株式会社アキュレイト (Accurate Inc.)

埼玉県越谷市南越谷4-16-13

※ 2009年度の集計について、2010年3月分の一部に予測値を含みます。
※ 内容は2010年4月1日現在となります。

1. 環境方針

株式会社アキュレイト 環境方針

◆環境理念

株式会社アキュレイトは、地球規模の環境保全が全人類の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動において、環境負荷の継続的低減に努め、持続的に発展できる経済社会の実現に寄与する。

◆環境方針

1. 事業活動を行うにあたって、地域社会や自然生態系に配慮し、環境保全に努めます。
2. 環境関連法規制や当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
3. 環境マネジメントシステムを構築し、環境目標を定め、継続的な改善活動を行います。また、次の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - ・電力、化石燃料使用量の削減活動
 - ・廃棄物の削減・リサイクル
 - ・省資源（節水を含む）の推進
4. 本方針は全従業員に周知するとともに、社内環境教育などを行い、実践致します。
5. グリーン調達活動や廃棄金属製品の削減を推進し、地球環境保全に努めます。
6. 製品設計（ばね設計）において有害化学物質の使用量が少ない商品開発の推進を行います。
7. 仕入れ、購買活動において製品材料に有害化学物質を使用しないグリーン調達活動の推進を行います。
8. 新規導入化学物質の事前評価と既存化学物質管理を実施し、削減します。
9. 本方針は社外からの要求や、その他必要に応じて開示致します。

2008年4月11日
株式会社アキュレイト
代表取締役 土屋 一延

株式会社アキュレイト

2. 事業活動の概要

・ 1. 本部

〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷4-16-13

・ 2. 事業所

東日本物流センター（東日本物流センター）

〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷4-16-13

TEL : 048-986-9624 FAX : 048-986-9630

東京カスタマーセンター（東京CC）

〒101-0021 東京都千代田区外神田4-7-5

TEL : 03-3526-4031 FAX : 03-3526-0257

名古屋カスタマーセンター（名古屋CC）

〒453-0814 名古屋市中村区熊野町1-9-1

TEL : 052-486-1190 FAX : 052-486-1191

京都カスタマーセンター（京都CC）

〒612-8413 京都市伏見区竹田三ツ杭町28-4

TEL : 075-646-4520 FAX : 075-642-1214

* 以後カスタマーセンターをCCと表記する。

・ 3. 環境保全関係の担当者連絡先

責任者兼東日本担当者

東日本物流センター・品質保証

西前 潤

連絡先 : TEL 048-986-9624

FAX 048-986-9630

西日本担当者

京都CC・西日本統括マネージャー

高橋 克明

連絡先 : TEL 075-646-4520

FAX 075-642-1214

・ 4. 事業内容

- ① ウルトラスプリング（自社ブランドの規格ばね）、タングレス・インサート、フリーストップヒンジ等の機械部品（規格品）のファブレス製造・販売
- ② 各種精密スプリングの設計、試作品および量産品のファブレス製造・販売

・ 5. 事業規模（年度：4月～3月）

年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
主要製品販売量(t)	17.88	23.66	25.44	21.3	17.33
売上高(百万円)	958	1,101	1,107	926	806
従業員数(名)	37	41	41	41	38
延床面積(m ²)	1,260.34m ²	1,250.65m ²	1,250.65m ²	1,250.65m ²	1,021.70m ²

従業員数：各年度初め。尚、2010年4月1日現在は34名。

延床面積：全CCの合計。横浜CC→東京CCへ移転（2006年2月）、福岡CC→京都CCへ統合（2009年5月）、本部→東日本物流センターへ統合（2009年8月）による変更

3. 環境目標とその実績

○2009年度目標

- ・ 温室効果ガス排出量 2008年度比 1%削減
- ・ リサイクルの推進により廃棄物等総排出量の削減
- ・ 省資源（節水を含む）の推進

○長期・短期目標

2007年度を基準年度としました。

	2007年度実績	2008年度目標	2009年度目標	2010年度目標
温室効果ガス排出量 (Kg-CO ₂)	66,115	65,454 (前年度比-1%)	64,799 (前年度比-1%)	64,151 (前年度比-1%)
電力使用量 (kWh)	139,523	132,547 (前年度比-5%)	125,920 (前年度比-5%)	119,624 (前年度比-5%)
ガソリン給油量 (リットル)	5,056.58	4,904.88 (前年度比-3%)	4,757.73 (前年度比-3%)	4,615.00 (前年度比-3%)
廃棄物等総排出量 (kg)	4,078.30	2,854.81 (前年度比-30%)	2,769.17 (前年度比-3%)	2,686.09 (前年度比-3%)
リサイクル量 (kg)	3,117.89	3,149.07 (前年度比+1%)	3,181 (前年度比+1%)	3,212.37 (前年度比+1%)
水道使用量 (m ³)	678.43	658.08 (前年度比-3%)	638.34 (前年度比-3%)	610.59 (前年度比-3%)
グリーン調達	全点RoHS対応			
化学物質管理	当社での取り扱いなし、ファブレス製造先での使用禁止・制限を書面にて確認			

4. 主要な環境活動計画の内容

【下記内容→□：目標、○印：取組項目、・印：取組内容】

□ 温室効果ガス排出量の削減

○ 電力使用量の削減

- ・ 昼休みの消灯及び定時以降の消灯（不在部署の消灯）
- ・ 過剰蛍光灯の取り外し（名古屋CC）
- ・ パソコンの省電力設定
- ・ 「クールビズ」「ウォームビズ」の推奨
冷暖房の設定温度は夏季28℃、冬季20℃を目標とする。

○ ガソリン給油量の削減

- ・ 使用状況の把握（走行距離）
日報（使用前と使用後の距離）
- ・ 営業時の公共交通機関使用の推奨
- ・ アイドリングストップ、省エネ運転の推進
- ・ 低排出ガス車の優先使用

○ ガス等の使用量の削減

- ・ 使用量及び使用用途の把握

- リサイクルの推進
 - 用紙などのリサイクル
 - ・ リサイクル可能なものとその他のものの分別
- 省資源（節水を含む）の推進
 - 水資源使用量の削減
 - ・ 水洗トイレのタンク内にペットボトルを入れる
- 有害化学物質の管理
 - グリーン調達の推進
 - ・ R o H S 6 物質の含有量の確認
 - ・ M S D S、ミルシートの取り寄せ
 - ・ 製品含有規制有害化学物質に関わる取組方針の見直し（半年に1度）
 - ・ 総合カタログへの「R o H S 適合品」の標記（2008年度版より開始）
 - ・ 通い箱の使用
 - ・ 古紙混入率の高いコピー紙の使用
 - 有害化学物質の調査
 - ・ 当社では取り扱いはないが、ファブレス製造先での使用禁止・制限を書面にて確認
 - ・ 顧客からの有害化学物質調査依頼への調査・回答

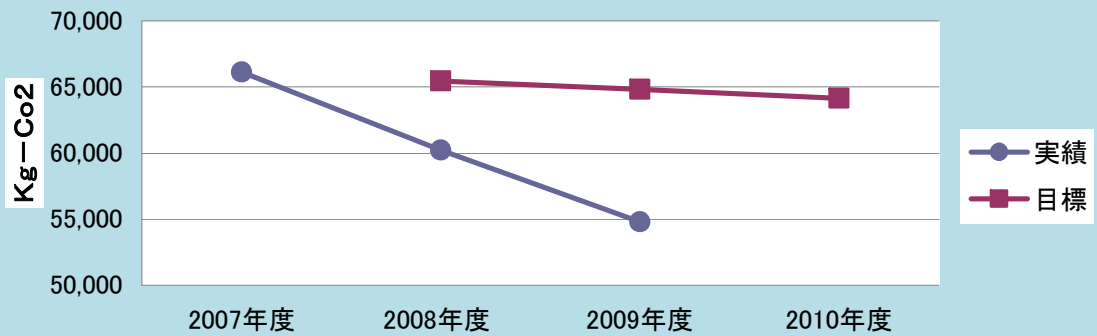
5. 環境活動の取組結果の評価

○目標に対する結果

	2009年度実績	2009年度目標	目標に対する結果
温室効果ガス排出量	54,816 Kg-CO ₂	64,799 Kg-CO ₂	-15.4%
このうち			
電力使用量	107,416 kWh	125,920 kWh	-14.7%
ガス使用量	74.1 m ³	(前年度使用量との比較)	-28.7%
灯油使用量	576.00リットル		+2.0%
ガソリン給油量	5,436.39リットル		+14.3%
廃棄物等総排出量	2,142.54kg	2,769.17kg	-22.6%
リサイクル量	4,195.00kg	3,181.00kg	+31.9%
水道使用（排水）量	497.64 m ³	638.34 m ³	-22.0%

- 温室効果ガス排出量の削減
 - 目標比-15.4%、前年比-9.0%
 - 社内全体として、本部を東日本物流センターに、福岡CCを京都CCに統合したため、使用量が減少した。

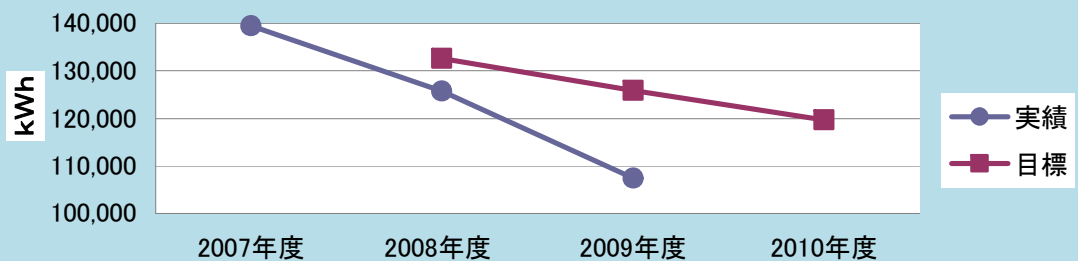
温室効果ガス排出量



○ 電力使用量の削減：目標比－14.7%、前年比－14.6%

- 本部を東日本物流センターに統合したことにより、東日本物流センターの使用量が増大した。特にコンピューターのサーバーを本部から移動したことが大きい。コンピューターが高温にならないよう、気温が高めの季節はエアコンの電源を入れっぱなしにしているため。
- 東日本物流センターの2Fのエアコンを8月に新しいものに交換した。COP（エネルギー消費効率）が前のは1.5位だったが、新しいのは4.02（冷暖平均）となり、エアコンの消費効率が上がった。

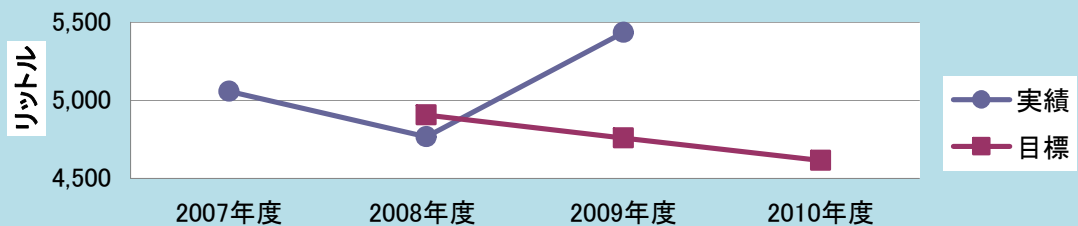
電力使用量



○ ガソリン給油量の削減：目標比＋14.3%、前年比＋14.0%

- 営業車全車両、低排出ガス車に入れ替えを実施済み。
- 秋頃から過去の全顧客（約1万社）を訪問するプロジェクトを行ったため、ガソリン給油量・走行距離が増加した。

ガソリン給油量



○ 売上高原単位での比較

- ・ 温室効果ガス排出量が減った以上に売り上げも減ってしまい、指数としては増えてしまった。

2007年度実績： 59.39 kg-CO₂/百万円

2008年度実績： 65.05 kg-CO₂/百万円

2009年度実績： 68.01 kg-CO₂/百万円

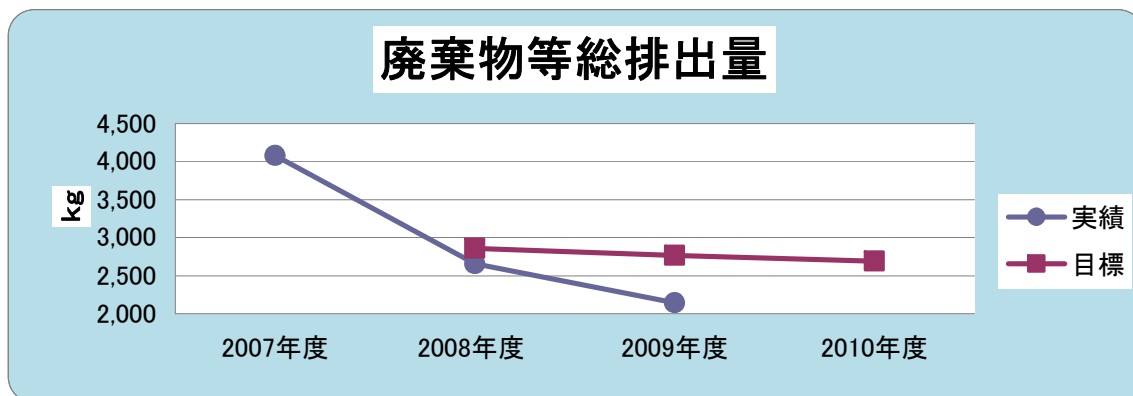
総括（経営者）

事業所統廃合のため、温室効果ガス排出量の大幅な削減が行えた。ガソリン給油量に関しては、景気低迷の打開策として、全顧客訪問活動（1万社訪問プロジェクト）を行ったので、目標を達成出来なかった。今後は、更なる温室効果ガス排出量の削減活動を全社的に取り組んでいきたい。

□ リサイクルの推進により廃棄物等総排出量の削減

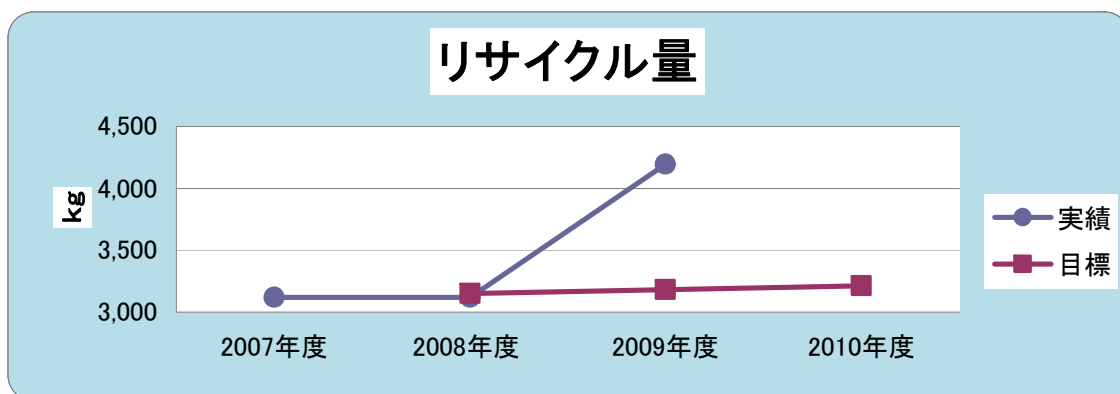
○ 廃棄物の削減：目標比－22.6%、前年比－19.3%

- ・ 新聞紙・コピー用紙などの紙類については、分別して廃棄物を削減している。
- ・ 2007年度は保管期間を過ぎた帳票類を大量に排出したため、実績値が大きい。



○ リサイクルの推進：目標比＋31.9%、前年比＋34.5%

- ・ 新聞紙、段ボール、コピー用紙などの紙類については、ある程度の量がたまったら業者へ持ち込んでいる（CCによっては業者に取りに来てもらう）。
- ・ 機密書類については、業者にお金を払って裁断してリサイクルしている。
- ・ 在庫として一定期間経過後に処分する鉄製品については、毎年3月末と9月末の棚卸前に業者に持ち込んでいる。
- ・ 本部の東日本物流センターへの統合の際、新聞雑誌・コピー用紙をリサイクルに出した分が大幅に増えた。
リサイクル量の多いものから分類別に見ていくと、前年度比で段ボールは－17.8%、新聞雑誌は＋99.4%、コピー用紙は＋140.1%だった。



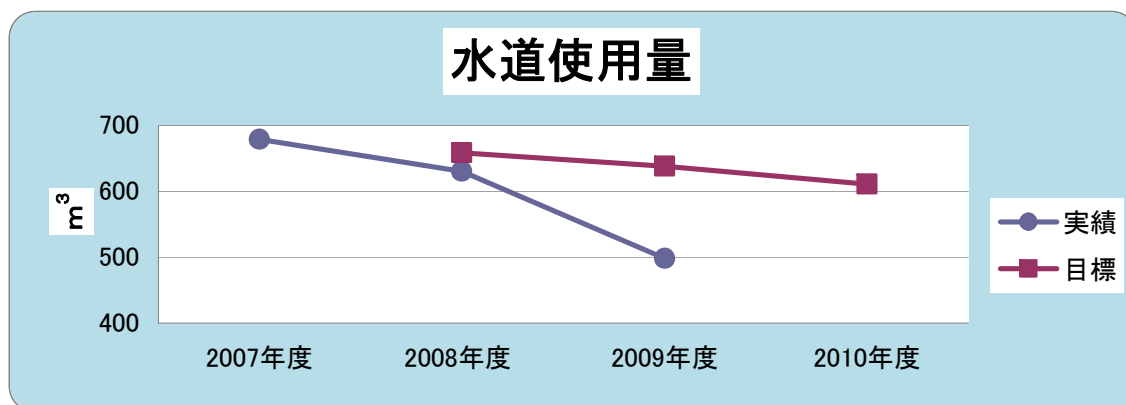
総括（経営者）

事業所の統廃合のため、棚・机・紙などのリサイクル量が大幅に増えてしまったが、廃棄物等総排出量は目標を達成する事が出来た。今後も、廃棄物削減活動を全社的に取り組んでいきたい。

□省資源（節水を含む）の推進

○ 水資源使用量の削減：目標比－22.6%、前年比－21.0%

（名古屋CCは使用量測定が不可能のため、各年使用量に含まれていない。）



総括（経営者）

事業所の統廃合の効果で、目標より大幅に削減された。今後も節水の啓蒙活動を全社的に行っていきたい。

□有害化学物質の管理

○グリーン調達について

当社規格品（総合カタログ掲載品）は全点RoHS指令に対応している。

RoHS 6 物質は原則として含有せず、含有の場合でもRoHS指令の適用除外規定に該当することを確認している。

各協力工場からMSDS（製品安全データシート）及びミルシート（材料証明書）を取得して、当社が購入・販売を行う全ての製品の全工程に関わる含有規制有害化学物質の管理を行っている。

また、製品含有規制有害化学物質に関わる取組方針は1回／半年の周期で定期的に見直しを行っております。

2008年度の総合カタログより「RoHS指令適合品」の標記を追記した。

他に協力工場からの製品仕入れ、各CC間の運送品の一部、赤帽での社外への納品の際は可能な限り通い箱を使用しております。また、古紙混入率の高いコピー紙を購入している。

○有害化学物質について

当社では有害化学物質の取り扱いはありませんが、各協力工場に問い合わせをして使用禁止・使用制限物質のチェック及び見直しを書面で確認している。

また、顧客からの有害化学物質調査依頼に対して、調査・回答を行っており、必要に応じてMSDS（製品安全データシート）及びミルシート（材料証明書）を提出している。

総括（経営者）

有害化学物質だけでなく、地球環境により配慮し、引き続きグリーン調達を心がけていきたい。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規への遵守状況は、「主な環境関連法規一覧」にて管理し、毎月開催されるコンプライアンス会議にてチェックを行っています。これまで創業以来過去24年間、環境関連法規への違反あるいは訴訟等は有りません。また、関係当局より違反等の指摘は有りません。